

新しいランドレース種系統豚

「ミヤギノL2」

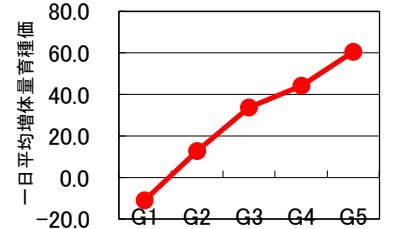
宮城県では平成元年にランドレース種系統豚「ミヤギノ」、平成13年にデュロック種系統豚「しもふりレッド」を造成し、現在これらの系統を使った肉豚「宮城野豚(ミヤギノポーク)」の生産が行われています。平成15年度からは、「ミヤギノ」をベースとした新たなランドレース種系統豚の造成を始めました。この造成では、従来からの発育や肉質に重点を置いた改良だけでなく、世界的にもあまり例のない病気に強い豚群(抗病性)の改良を行いました。

期間：平成15年～平成20年(6年5世代)
 種：ランドレース種
 選抜形質：産肉性(一日平均増体量,背脂肪厚)
 繁殖性(総産子数)
 抗病性(豚マイコプラズマ性肺炎)
 その他考慮した形質：肢蹄の強健性,免疫形質

1 産肉性の改良



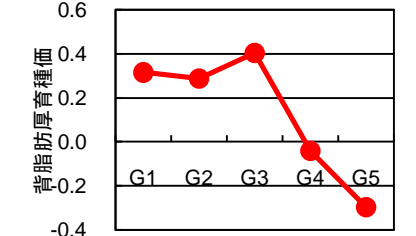
①一日平均増体量



世代	G1	G2	G3	G4	G5
雄雌平均 (g/day)	827.6	843.5	880.0	846.5	903.9

図.各世代一日平均増体量とその育種価の推移

②背脂肪厚



世代	G1	G2	G3	G4	G5
雄雌平均 (mm)	20.0	21.3	23.0	21.3	21.5

図.各世代背脂肪厚とその育種価の推移

一日平均増体量は第5世代(G5)では、雄雌平均で903.9gとなり、背脂肪厚は第5世代(G5)では、雄雌平均で21.5mmとなりました。

2 抗病性の改良



豚マイコプラズマ性肺炎病変

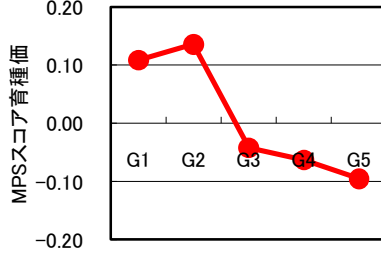
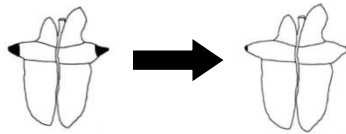


図.各世代MPS病変育種価の推移



第1世代
スコア平均3.3

第5世代
スコア平均1.1

養豚現場で最も問題となる呼吸器疾病の内、豚マイコプラズマ性肺炎(MPS)に対する抗病性の改良に取組みました。その結果、ほとんど病変が認められない程度にまで改良することが出来ました。

この遺伝的能力を活かすためにも日頃から衛生管理の徹底が必要です。

3 繁殖性の改良

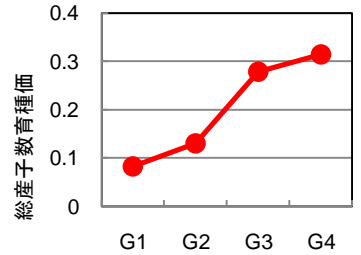


図.各世代総産子数育種価の推移

表.各世代産子成績(平均値)

世代	腹数(頭)	交配雄(頭)	産子数(頭)	哺乳開始頭数(頭)	離乳頭数(頭)	育成(%)
G0	33	14	8.2	7.8	7.0	89.9
G1	50	13	11.8	11.2	9.8	87.5
G2	44	15	12.0	11.6	10.2	87.9
G3	48	15	11.3	10.6	9.7	91.0
G4	47	15	11.7	11.2	10.2	90.9

前ミヤギノ完成世代	10.7	9.6	8.4	83.6
-----------	------	-----	-----	------

繁殖成績は総産子数が11.7頭、哺乳開始頭数が11.2頭、4週齢時の離乳頭数が10.2頭となりました。前ミヤギノ完成世代の産子数10.7頭と比較し1頭増で、離乳頭数では約2頭の増となりました。

6年間5世代に渡る系統造成試験により、平成21年3月19日ランドレース種系統豚「ミヤギノL2」として(社)日本養豚協会から認定を受けました。今後は、種雌豚として県内農家へ配布され、銘柄豚「宮城野豚(ミヤギノポーク)」の生産に貢献していきます。